

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.tenyuukai.jp/fujimien_main.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良好な健康状態でいられ、自立的で楽しく穏やかな日常生活が出来る様に心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所職員が掲げる言葉は、利用者が喜ぶ介護であるという明確な指針である。また、外国人職員2名は、明るく親切的な介護を提供し、5年以上の勤続で事業所にとって欠かせない存在になっている。利用者が活き活きと過ごせる環境は、職員が利用者の昔話を丁寧に傾聴し、共感することで生まれている。同敷地内の自立支援ホームの職員とは、避難訓練や津波時の避難場所として建物の2階屋上を緊急避難場所とするなど、協力関係を築いている。事業所で行われるイベントの写真は、利用者家族に向けて郵送され、その際には顔が折れないようA4サイズの大型封筒に入れられる。現在は、BCP計画の一環として、市役所の関係部署に無線装置の設置に向けた補助金の活用を申請中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	富士見苑理念と法人理念を月一度の職員会議時に唱和をしている。	事業所の理念やよりどころとなる言葉は、「利用者に喜んでいただけるような介護」であり、これは毎月の職員会議や毎日の朝礼時に共有されている。職員はこの理念を胸に、優しく丁寧な介護を目指している。特に、2名の外国人職員は、書類関係をローマ字に直して理解し、明るく優しい対応を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の環境整備に一回、参加し、年2回、区費を納める際や回覧板を持って行く際に交流する。	事業所は区の自治会に入会し、回覧板が回ってくる。区の環境美化活動では、ごみ拾いや伸びた木の裁定、草刈りなどに参加している。コロナ禍の落ち着きを見て、今後は地区イベントの敬老会などの行事にも参加したいと考えている。消防訓練時には、消防車が来ることをご近所に事前に通告している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学時に認知症の方の特性や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は中止中。	コロナ禍の対応として、現在は書面での報告が行われている。内容は事業所での活動報告や職員の異動、イベントの様子を写した写真、利用者一人ひとりの近況など詳細な報告書が作成されている。書面は直接、富士市介護福祉課に持参されている。地域包括支援センターへは、入居状況の連係以外はまだできていない。	今後は運営推進会議をリアル開催に向けて準備したい。参加者としては市の職員、地域包括支援センター、利用者家族などの参加が望ましい。これは地域の理解と支援を受けるための貴重な機会として認識されている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の社会福祉課・介護福祉課からの空室状況の問い合わせがあった際に実情等を伝えている。	コロナ禍では、市から備品の供給を受けている。市の方からは、困っている人の入居相談などが寄せられている。現在は、災害対策の一環として、補助金を活用した無線設備の申請を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や身体拘束研修時に身体拘束は禁止である事を伝えている。玄関の施錠は20時、開錠は6時に行っている。ただ、精神不安により、どうしても施設外に出ようとするご利用者がいる場合は、そのご利用者の居住する棟の玄関を一時的に施錠している。	4か月ごとに行政の資料やネット情報を活用し、学習が行われている。外国人職員にも分かり易い言葉で具体的な注意事項が説明されている。待つほしいときは、「これが終わったら行きます」と伝えている。玄関の外に出たい利用者は、職員が付き添い敷地内を回る。重症の利用者の布団には鈴がつけられ、動きが分かるよう配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待があれば職員同士で注意しあい、管理者に報告する様にしている。また、施設内研修で虐待に関する研修を行い、虐待防止を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会はない。現在、日常生活自立支援事業利用者1名、成年後見人制度利用者1名がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項、契約内容、料金等について説明後、質問がないか尋ね、又、施設利用後に分からない事があれば、質問する様、伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や家族の意見、要望は朝礼や昼礼、職員会議で伝え、外部者には運営推進会議で発表している。	毎月の請求書を家族に送付する際には、小遣いの明細と管理者の手紙が添えられている。イベントの様子は写真に撮り、利用者の顔が折れないようA4サイズの大型封筒に入れて郵送している。介護計画を変更した場合は、個別に家族に直接電話をかけて丁寧に説明している。家族からの依頼、例えば風邪をひきやすい利用者への注意なども、適切に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や業務中、随時に意見を聞き、施設運営に反映する様にしている。	職員会議や朝礼時には活発な話し合いが行われている。管理者には随時介護についての提案があり、リハビリパンツの使用やリフトを使った機械浴などが採用されてきた。職員と管理職は常日頃から様々な話をしており、職員間の人間関係も良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々を評価し、それに応じた昇給や賞与の増額、処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ加算を算定し、所得水準向上を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やWEB研修等で知識の習得を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を構築することは行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時に要望や不安等を訪ね納得できるように説明し、安心して施設生活が送れる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望を聞き取り、説明を行い家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人の状態を確認し、グループホームで対応出来ない場合は、他のサービスを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者から何かあればその都度、聞きとり問題解決を行う様にし、又、職員と一緒に環境整備や荷物運び等を行い、近い関係が築ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の要望や状況を伝え、病院受診や診察の立ち合い、買い物依頼等を行い、家族と共にご本人を支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者から連絡依頼があれば随時、対応している。	利用者の趣味である読書や塗り絵などは積極的に支援している。利用者の昔の思い出を聞くと、喜んで話してくれる。行事食では、一人ひとりの希望を聞き、かつ丼や寿司などの出前を取って食べている。前職が清掃会社の利用者は、慣れているモップ掛けを手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が集まる時間や施設行事の際にご利用者同士が関われる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族側から相談等があれば、その都度、応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、ご利用者の要望や意向を把握し、それらが実現できるように心がけている。	新規利用者の思いや意向については、本人自身の言葉で言える人は少なく、殆どのケースとして家族の意向が優先されてしまう。1~2ヶ月は帰宅願望が消えなく、その後落ち着いてくると周りの入居者とも話が出る様にはなるが、具体的な想いについては、なかなか表現できない方が多い。職員は、日常の行動や表情から汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前や入所時に家族や本人、ケアマネジャー、相談員等から聞き取りを行い把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介助に当たる際や言動・行動を観察し、心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、職員と話し合い、利用者の状態にあった介護計画の作成をしている。	管理者はケアマネジャーを兼務しており、月1回の職員会議でスタッフ全員にモニタリングを行っている。その情報を基にドクターや家族とも相談のうえケアプランの作成・更新にあたっている。入所段階では3ヶ月以内に、その後は6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か変化があればケース記録や業務日誌に記載し、職員間の情報共有が出来る様にし、又、介護計画の見直しに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や利用者からの買い物依頼、食べたい物のリクエストに出来る限り、応じる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺のドライブや地域内の飲食店から出前を取り、楽しめる様にした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医以外の医療機関への受診希望があれば、その医療機関に受診するようにしている。主治医以外の医療機関に受診した場合は、ケアネットメッセージにて主治医に報告をする様にしている。	利用者は個人単位で提携医の田中ハートクリニックと訪問診療の契約を行っており、月1回の往診を受けている。循環器内科のドクターなので、他科での診療については家族で対応出来ない場合は、管理者自ら通院介助を行うこともある。結果については往診時も含め家族にはしっかりと報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や健康上で何かあればケアネットメッセージにて、主治医に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院関係者と随時、情報交換を行い適切な治療が行えまた、早期に退院できるようにしている。主治医とは往診やケアネットメッセージで相談を行い、関係強化に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所後に終末期や重度化した際の対応について家族や利用者へ尋ね、施設が行えること説明し、終末期や重度化した時の方針を決め、それを主治医に報告している。	天候不順で季節の変わり目には健康管理に注意しているが、今年度は1名の看取り対応があった。施設では医療行為を行う事が出来ない事、終末期の対応等を含め、入所時には家族には確認しているが、その場に直面すると変わる場合もあるため、基本は家族の意向に沿った対応を行う事にしている。看取りの研修については、未経験の職員を優先に受講して頂き、内部の職員研修で発表を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災、夜間想定避難訓練を年3回、実施し、運営推進会議時に避難状況を発表し、地域の協力が得られる様にしている。	海に面した好立地ではあるが、地震・津波が最も怖い自然災害である事は間違いない。過去の被害経験もあり、万全の対策が敷かれているが、いざというときに果たして18名の利用者を安全に移動させる事が出来るかどうか不安もあり、そのために、年間に、地震、火災、夜間火災の3つを想定して、年間3回の訓練を行っている。今年度は行政からの支援も受け、自家発電装置の導入も行われている。	行政からの指導では、福祉事業所におけるBCP(事業継続計画)は自然災害だけでなく感染症対策も含めたプランが、これまで努力義務であったものを令和6年度からは義務化される事になっている。法人、地域、周辺事業所を含め協力体制の下、検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を選びながら話し、個人的事は他のご利用者がある前では話さない様に心がけている。	事業所内では、利用者一人ひとりの尊厳と権利を守る為のプライバシー確保を行う風土作りを心掛け、不適切な対応があれば職員同士で注意しあっている。利用者に対しては、年長者として常に敬意を払う気持ちが重要であり、あからさまな介護により本人を傷つけないよう日頃から意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の訴えに対して、否定せず優しく、良く聞き取り、話しやすい環境を作り、又、助言を行い、自己決定が出来る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、オヤツ時以外は、気ままに生活できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示が困難な方は声掛けを行い表情を見ながら職員が行い、意思表示が出来る方は、自分で行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が作っているが、時々ではあるが、オヤツ作りはご利用者に食材を混ぜてもらったり等している。また、職員と一緒に食器拭きやお手拭きタオルの用意をしている。	メニューはあらかじめ同一グループ事業所の大佐和苑というケアハウスにいる栄養士の方から提供頂いている。食材は外部業者からの調達と、事業所内での調達によるものと半々くらいであり、調理は職員が行っている。最近ADLの低下により利用者の皆さんによる配膳や後片付けなどのお手伝いは徐々に出来なくなってきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取量を見て、個々の利用者にあつた、食事形態を提供し、また、食事摂取状態や体重を主治医に伝え、栄養確保が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は本人に行ってもらい、時々、口腔内のチェックを行い、口腔内清潔が保てる様にしている。自分で出来ない方は口腔洗浄液で口腔清拭を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄を行うようにしているが、ご利用者の状況により、オムツ使用者ではあるが、排便時はトイレで行ったり、日中はトイレで排泄し、夜間はオムツ対応している。また、排泄の状況を見て、声掛けを行いトイレ誘導を多くする等、オムツ使用の削減、失禁防止をしている。	日中の排泄記録によるトイレ誘導、夜間は3時間毎の定期巡回による排泄確認を行っているが、排泄は基本トイレで行う事を可能にするため、行きたいときに行けるよう本人の生活リズムに沿った支援を心掛けている。オムツ使用者はまだ二人いるが日中はできるだけトイレでの排泄に拘って誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家事やレクリエーションで身体を動かし、また、朝食時の牛乳の提供、水分補給に気を付け、便秘にならない様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は施設の決められている時間で、順番に入浴をしている。入浴の希望があった際は、出来る限り対応する様にしている。	入浴は週3回の利用をお勧めしており、職員に余裕があればそれ以外にも利用希望に対応している。車椅子利用者もいる中、昨年度浴室のリニューアルに伴い、リフト浴設備を導入して頂いた結果、大変好評であり、利用者、職員共々喜んで頂いている。比較的暖かい気候でもあり、お風呂のニーズは高いようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠、休息は自由に行っている。介助が必要な方は時間や体調を見て、職員がベッド誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、主治医や薬剤師に聞いたり、薬の説明書で用法、用量、副作用について確認できる様にしている。また、服薬中に何かあれば、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	荷物運びや洗濯物たたみ、モップ掛け等の家事、レクリエーションを行い、楽しく充実した生活が送れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族による外出やレクリエーションで戸外に出る以外は、外出する事は殆どない。	現在、外出支援は行っていないが、頻度は低いが、ご家族と一緒に外出などは時々ある。今年度、施設の裏にある畑でカボチャの栽培を始め、収穫まで出来る様になった。今後、表の土手でもお花の栽培等行い、ガーデニングの楽しさも提供出来るようになると良いと考えている。このような支援を始めると職員不足がネックとなり、もう一人増員して頂きたいところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは施設側で管理し、何か購入したい物があれば、職員が小遣いの中から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい様に環境を整え、季節の飾りつけやレクリエーション時の写真を貼り、生活感が出せる様にしている。	玄関、食堂、浴室、トイレなど共用空間は色々あるが特に利用者の皆さんが日中集まるリビングにおいては、居心地の良い、安心感のある場所となるように、季節感のある飾り付け、写真の掲載など、話題提供が出来る空間となるよう心掛けています。又、時間を決めて運動不足解消の為にオリジナル体操も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に使用できる様にしている。又、ユニットの行き来も自由にし、ご利用者同士が交流できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた衣類や家具、食器を持ち込む様にしている。	利用者の皆さんが1人になってくつろげる唯一の場所であり、入所前から使用している馴染みのものを自由に持ち込むことが出来る様配慮しており、職員もそういったことを意識しながらお部屋のケアも行っている。特に整理整頓、お掃除についても毎日確認しながら気になることがあれば、本人にも確認しながら対応するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や段差の解消、浴室・浴槽を改修し安全に利用できる様にしている。		